

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：32674

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370177

研究課題名(和文)越境する現代日本ファッションに関する基盤研究

研究課題名(英文)Scientific Research on Transboundary Contemporary Japanese Fashion

研究代表者

高木 陽子 (Takagi, Yoko)

文化学園大学・服装学部・教授

研究者番号：60307999

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ファッションとテキスタイルの文化的・地理的「越境」に注目し、グローバルな議論を展開するため、国内外から、研究者、デザイナー、学芸員等を招き、毎年2回計6回の英語による国際セミナー“越境するファッションセミナー”を開催した。ファッションの越境に関わる6つの問題(理論と実践の架橋、英国と極東、技術革新と近代化、ストリートファッション、非西洋圏のファッション展、日仏の芸術学と人類学の協働)を設定し、ファッションが、諸芸術と相互依存し、国境や文化圏を越える時に新たな文化的表現を生む多様なケーススタディーを蓄積し、国際研究者ネットワークを構築した。

研究成果の概要(英文)：This research project focuses on the cultural and geographical transboundary aspects of fashion and textiles. The "Transboundary Fashion" seminars took place twice a year, and invited a variety of experts, academics, designers, and curators from home and abroad. Using six themes (Bridging Theory and Practice, The UK and The Far East, Technical Innovation and Modernization, Street Fashion, Fashion Exhibitions in Non Western Regions, and Collaboration between French-Japanese Art Studies and Anthropology), it accumulated various case studies in which fashion has been deployed in various art forms and where new cultural expressions are created when national and regional borders are crossed. It also established an international network of researchers.

研究分野：芸術学

キーワード：ファッション 芸術学 芸術と産業 テキスタイル 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

クリエイションとしてのファッションは、資本主義とモダニズムが生み出した西洋近代の文化的産物である。1920年代に写真、グラフィックとともに出現し商業芸術として発展し、1948年に英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アートで専門コースが設立され、各地の美術アカデミーに広がり、芸術の一領域と認知されるようになった。ロンドン芸術大学のセントラル・セント・マーチンズカレッジ、ベルギーのアントワープ王立美術アカデミーなどのアカデミー系大学のファッション科は、世界各地から学生を集め、ファッション産業に貢献するデザイナーを輩出している。

デザイナー主導型の模倣の垂直法則の時代は1960年代末には終焉し、多様化模倣の水平法則にとってかわり、ファッションは個性を表現する媒体となった(Lipovetsky, 1987)。三宅一生、川久保玲(コム・デ・ギャルソン)、山本耀司が国際的デビューを果たすのは、1980年前後の、まさに個性化の時代であった。その一方で、現代ファッションは、産業の要請から生産・展示・流通・消費の各段階でグローバル化、つまり第2の産業革命の最中にある。現代ファッションは、グローバル化を抱えた産業であり芸術という、興味深いフィールドである。

その研究方法を振り返ると、1980年代以降の英語圏で、芸術学・美術史・歴史学を中心に、社会理論・文化人類学・民族学・博物館学・メディア論・映画理論・哲学・デザイン研究・ビジネス理論・文学理論を分野横断的に研究する総合領域ファッション・スタディーズが形成されつつある。(Riello, 2010)

2. 研究の目的

研究代表者は、ベルギーのジャポニズムについての博士論文(Takagi 2002)出版後、美術とデザインの地理的・文化的越境について研究してきた。「日本的なもの」がいかに海外で受容され、どのようなものが作り出され、それは現地のどのような考えに基づいていたかについて、産業と芸術の性格を併せ持つファッションとテキスタイルを対象に研究し、論文や展覧会として国内外で発表してきた。本研究では、急速にグローバル化する世界のなかの日本ファッションに注目し、(1)衣服デザインの領域を超え写真、グラフィック、音楽、映画、演劇、ダンスなどの芸術諸を巻き込みながら展開している状況、(2)生産から消費までの過程で国境を往還し、各地域で新たな文化を生み出している状況を、調査・分析する。

3. 研究の方法

国内外から研究者、デザイナー、学芸員、ジャーナリスト、産業人、大学院生を招き、英語による「越境するファッションセミナー(Transboundary Fashion Seminar)」を年2

回、合計6回開催する。各セミナーのテーマには、1980年代より個性を表現するメディアとなったファッションが、多様な芸術ジャンルと相互依存すると同時に国境を越える時に新たな文化的表現が生まれる「越境」的な問題を設定する。セミナーは、英語を使用言語とし、その成果は日本語・英語によるHP(<https://transboundaryfashion.wordpress.com>)で公開する。

以上の方法により、研究発表と議論を展開して、ケーススタディーを蓄積し、グローバルな研究交流をおこない、共通の問題意識をもつ国際的研究者ネットワークを構築する。日本のファッション・クリエイションの豊かさを国内外に示すことにより、消費者のファッションに対する意識の変革を促すとともに、将来のデザイナー、研究者、編集者など、ファッション文化に関わるクリエイター輩出を促し、文化産業、クールジャパン政策、そして文化大国としての日本の統合にも貢献したい。

4. 研究成果

(1)セミナー 1.1「実践と理論を架橋する」(2014年10月29日、文化学園大学)では、Clemens THORNQUIST教授(Swedish School of Textiles, University of Borås, Sweden)の研究発表「物質のエビデンス：一連の例によって明確にされる理論」とファッション制作の理論構築について議論をおこなった。

(2)セミナー1.2「英国と極東を架橋する」(2015年2月13-14日、文化学園大学)では、本研究と共通した問題意識をもつ、英国の芸術人文学研究カウンスル(AHRC)の「ファッション&トランスレーション：英国、日本、中国、韓国」研究グループと共催で2日にわたる国際シンポジウムを開催した。相手方構成メンバーであるDr. Sarah CHEANG(Royal College of Art), Dr. Elizabeth KRAMER(Northumbria University), Anna JACKSON(Victoria & Albert Museum), Dr. Yunah LEE(Briton University)のほか、Dr. Toby SLADE(Tokyo University), Christine Tsui(Hong Kong University)をはじめとする研究者が、研究発表、議論、文化学園服飾博物館資料特別閲覧をおこなった。

(3)セミナー 2.1「技術と欲望を架橋する：ミシン、消費者、第2次大戦後の日本ファッション」(2015年6月24日、文化学園大学)では、『ミシンと日本の近代 消費者の創出』原著2011、日本語訳2013著者Andrew GORDON教授(Harvard University)をまねき、女性の労働、洋裁と教育について発表と議論をおこなった。

(4)セミナー 2.2「ストリートとファッションを架橋する」(2015年10月24日、文化学園大学)では、消費、都市空間に注目し、

日本、合衆国、オランダ、香港、英国の研究者を招き、日本のストリートファッション研究の現状(高野公三子、Web-Across)、英米の人類学による研究方法(Christine WU、文化学園大学)、ストリートファッションを主題とする美術作品と人類学的研究の比較(Dr. Marjan GROOT、Leiden University)、香港へのインパクト(Angelika LI、Mills Gallery、Hong Kong)、外国向けメディアが日本のストリートファッションのイメージを形成し日本に還流している実態(Samuel THOMAS、Tokyo University)の発表後、海外からみた東京のファッション文化、クールジャパンの現状と課題について議論した。

(5) セミナー 3.1 「アジア・パシフィック地区のファッション展」(2016年6月2日、文化学園大学)では、ファッション展を企画してきたオーストリアと日本の学芸員 Glynis JONES (シドニー応用芸術科学博物館)、本橋弥生(国立新美術館)、吉村紅花(文化学園服飾博物館)を招き、西洋中心のファッション展に対し、非西洋のアジア・パシフィック地区のファッション展示の独自性について発表と議論を行った。

(6) セミナー 3.2 「文化間の対話としてのファッション」(2017年3月21、22日、フランス国立科学研究センター)では、フランス社会科学高等研究院 Dr. Anne MONJARET が主催する「ファッション世界の人類学セミナー」との共催セミナーをパリで開催した。日本側3名フランス側9名の発表により、日仏の芸術学と人類学研究者が国際的かつ学際的に問題提起し、平成29年度に東京で日仏共同セミナーを開催して議論を継続することを決めた。

(7) 以上、本研究では、産業と芸術の性格を併せ持つファッションとテキスタイルを対象に、3年間で計6回の国際セミナー“Transboundary Fashion Seminar”を開催した。理論と実践の架橋、英国と極東、技術革新と近代化、ストリートファッション、非西洋圏のファッション展、日仏の芸術学と人類学の協働といった6つの観点から研究発表とディスカッションをおこなった。その結果、1980年代より個性を表現するメディアとなったファッションが、多様な芸術ジャンルと相互依存し、国境や文化圏を越える時に新たな文化的表現を生む多様なケーススタディーを蓄積することができた。今後は、国際的協働をさらに進め、論点を整理して越境するファッションの理論構築を目指す。

<引用文献>

G. Adamson, G. Riello and S. Teasley ed., *Global Design History*, Routledge, 2011
G. Lipovetsky, *L'Empire de l'éphémère : la mode et son destin dans les sociétés*

modernes, Gallimard, 1987

G. Riello and P. McNeil ed., *The Fashion History Reader: Global Perspectives*, Routledge, 2010

Takagi Yoko, *Japonisme in Fin de Siècle Art in Belgium*, Pandora, 2002

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計3件)

Takagi Yoko & Marjan Groot, “Tokyo Halloween on the Street: Japanese Dressing Up Between Bricolage and Authenticity,” *Dress: The Journal of the Costume Society of America*, 査読有, Volume 43, 2017 - Issue 1
DOI:10.1080/03612112.2017.1290189

高木陽子「アンリ・ヴァン・ド・ヴェルドと非西洋デザイン 染型紙とパティックをめぐるクロスカルチュラルな考察」『服飾美学』、査読有、第63号、20-38頁、2017年3月31日

高木陽子「芸術学としてのファッション研究の現在」『服飾美学』、査読有、第59号、34-47ページ、2014年3月31日

[学会発表](計5件)

Yoko Takagi, “Katagami, Visual Analogy, and Cross-Culturalism,” 国際シンポジウム *Katagami in the West*, 2016年3月18-19日, University of Zurich(スイス)

高木陽子「越境する日本とベルギー：グローバルファッション史を変えた二つの小さな国家」日白修好150周年記念シンポジウム『文化・知の多層性と越境性へのまなざし 学際的交流と「ベルギー学」の構築をめざして』2016年12月10-11日、東京理科大学(東京)

Marjan Groot and Yoko Takagi, “Tokyo Halloween: Euro-American horror and the Tokyo Scream Queen Film fest 2015,” 国際シンポジウム *Haunted Europe: Continental Connections in English-Language Gothic Writing, Film and New Media*, 2016年6月9-10日, Leiden University(オランダ)

Yoko Takagi, “Curating the exhibition, Feel and Think: A New Era of Tokyo Fashion in Tokyo, Kobe, and Sydney,” 国際セミナー *Fashion and Translation: Britain, Japan, China and Korea* (UK AHRC funded), 2014年7月3-4, Northumbria University, Newcastle(英国)

高木陽子「芸術の一領域としての現代ファッション研究の可能性について」服飾美学会全国大会、2014年5月31日、文化学園大学（東京）

〔図書〕(計1件)

Yoko Takagi, "Art Nouveau in Belgium in the Light of Cross-Culturalism: The Case of *Katagami*, Japanese Stencils," *Belgium & Japan - An Itinerary of Mutual Inspiration*, Tiel, Lannoo Publishers, 2016年12月, pp.301-315

〔その他〕

ホームページ等

<https://transboundaryfashion.wordpress.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高木陽子 (TAKAGI, Yoko)
文化学園大学・服装学部・教授
研究者番号: 60307999

(2) 連携研究者

トビー・スレイド (Toby SLADE)
東京大学・教養学部・准教授
研究者番号: 70534337

(4) 研究協力者

ダフネ・モハジャ (Daphne MOHAJER)
文化学園大学・生活環境学研究科・博士後期課程学生
日本学術振興会特別研究員

サスキア・トーレン (Saskia THOELLEN)
文化学園大学・生活環境学研究科・博士後期課程学生